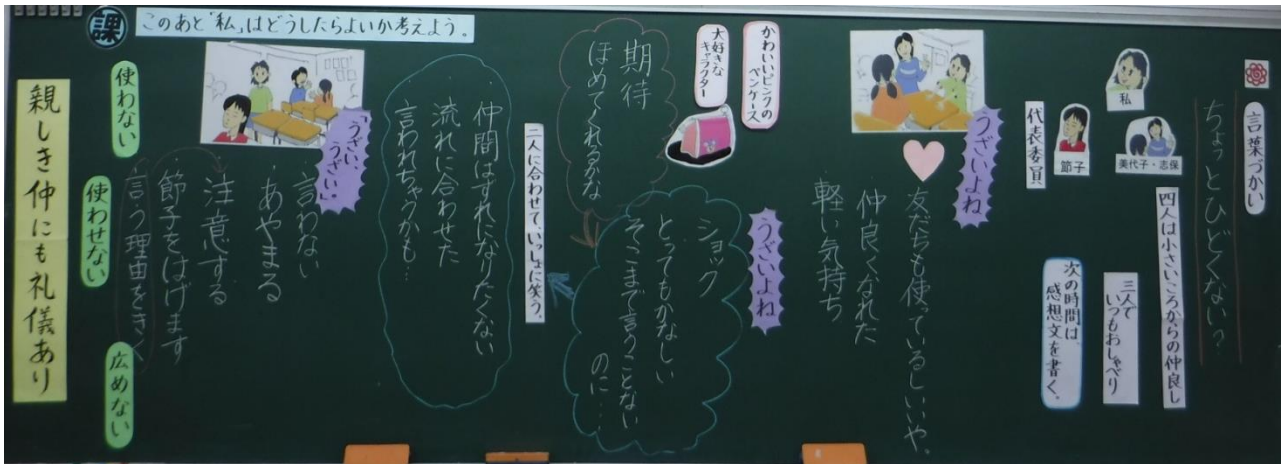


杉戸町立杉戸第二小学校

高学年部会

主題名 礼儀を大切に 2-(1)

資料名 「ちょっとひどくない？」(彩の国の道徳「夢にむかって」)



授業風景



ワークショップ型グループ協議

授業者から

「私の授業の観てほしいポイント」の説明、授業についての感想等

「私の授業の観てほしいポイント」

- ①主体的・能動的に考えるために
- ②学び合いを深めるために
- ③自己を振り返り、みつめるために

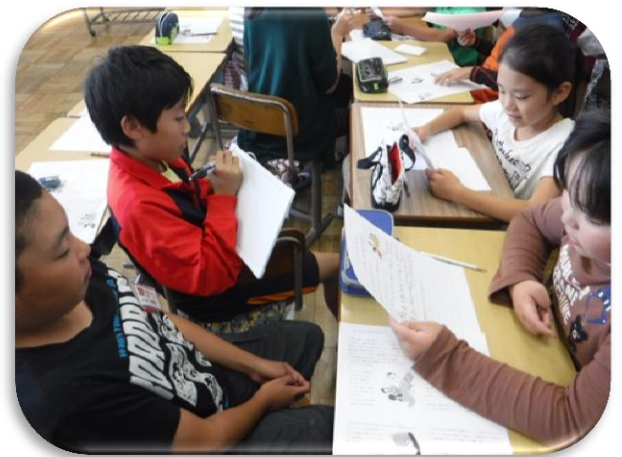
※詳しくは、「私の授業の観てほしいポイント」をご覧ください。

- ・前半部で心情を追い、後半部で課題を設定し課題解決型の授業を展開した。
- ・それぞれの場面での心情を深く考えられるようにするため、資料を分割して提示した。
- ・日頃の児童の実態から、授業後の児童の変容を把握し、評価につなげていきたい。
- ・考えを共有することで深められるよう、少人数での話し合い活動を取り入れた。

各グループからの発表

ワークショップ型分科会

- ・「言葉遣い」という点を最初に押さえていたので、話し合いがぶれなかった。
- ・分割することで児童は意見を出しやすいが、全体を判読してからにすると、児童から課題を出せたのではないかな。
- ・今回の資料は、「ウザイ」という言葉に注目させたいので、区切らない方がよかったのではないかな。
- ・個→グループ→個の流れがよかった。
- ・自分の意見をよく言えていた。
- ・ホワイトボードの活用がよかったので、さらに提示し広めたかった。考えをホワイトボードに書いていたので、ワークシートの分量はもう少し少なくてもよかったのではないかな。
- ・話し合いで多くの案は出るが、「どれもよい」で終わってしまうと深まらない。「どうして一緒に笑ったのか」のところで、話し合わせてもよかったのではないかな。
- ・アンケートを活用して「私たちも言っている」のところで振り返らせるとよかった。
- ・アンケート④はふせておき、最後に活用してもよかったのではないかな。
- ・時間が足りなくなってしまうので、書く活動が2つは多かったのではないかな。



指導講評

- ・「心を一つにします」という担任の投げかけ、心を考える学習であることが明確にされていた。
- ・授業に臨む児童の態度が素晴らしい。よく集中していた。
- ・道徳の授業は、1つのドラマを45分間でやらなければならない。どこにどれだけ重きを置くか、時間をタイマーで図るのはどうでしょうか。子供を急がせてしまい、音が心を乱してしまうのではないか。
- ・「ウザイ」という言葉がこの授業のポイントである。使っているか、悪いかということを考えさせる授業である。何度も出てくる「ウザイ」。しかし、その捉え方が変わってくる。そこを考えて、傷つけてしまう、使ってはいけないということを学ばせていきたい。
- ・座席の工夫について、コの字型も有効だが、活用の意図をもって行ってほしい。道徳の授業はいつもコの字にこだわる必要はない。外でも、教室でなくても、机がなくても、実態に応じた工夫をしてほしい。・授業の最後の振り返りで、ねらいに沿ったことがかけている児童が多かった。書かせる活動は時間がかかるので、よく考えて取り入れる。
- ・新しい授業とはストライクゾーンを広くする。これまでの道徳授業は狭すぎた。心情理解のみではなく、問題解決型や体験を取り入れた学習をよりよく工夫してほしい。そのためには問題設定の工夫が必要である。これまではタブーとされていたが、展開の途中で問題点を提示することも工夫してほしい。
- ・評価について、ルーブリック評価など新たな方法も研究されているが、評定(数値)をするのではなく、1時間1時間をためておいて根拠のある評価をし、児童の成長やよさを評価してほしい。
- ・今回の授業から、先生の意欲に感動、そして工夫された授業に安心しました。埼玉の道徳授業のレベルの高さを感じた。

